

「ラザロよ、出てきなさい」 ヨハネによる福音書 11 章 38 ～ 41 節

柵原キリスト教会牧師小林光生 2025 年 11 月 9 日

先週、ある所に行きましたら、音楽が流れてきました。

クリスマスの音楽でした。「教会も準備しなくては」とも思いました。

何か順番がおかしいとも思いましたが・・・。

クリスマスへの準備で一番大切なことは、聖書のことば、イエス様のことば約束を信じ、受け止めていくことではないかと思います。

先週の聖書箇所では、「イエス様があなたが愛しておられるラザロが病んでいます。あぶないのです」とうメッセージが主イエスに届いたのですが、主イエスは、なかなかラザロの所に行かれなかったのです。そうしてラザロは死んでしまったのです。

「ここにいてくださったならラザロは死ななかつたのでしょうに」

「遅いんです、手遅れです」ということばに対して主イエスは
イエスは言われた。『私は復活（ふっかつ）であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。』（11章25節）。とマルタに宣言なされたのです。

今日の説教題は「ラザロよ出てきなさい」です。

これから主イエスは十字架に向かっていかれますが、十字架の前での 7 つめの奇跡、また最後の奇跡であるのです。

多くの内容が書かれているが 3 つのことばに集中してみたい。

最初は「イエスは涙を流された。」 ヨハネによる福音書 11 章の 35 節です。この節は聖書で一番短い節であります。英語の聖書では **Jesus wept** たった2語です。

先週の説教箇所では、主イエスとお姉さんのマルタとの対話がでてきましたが、今日のところでは、妹のマリアが登場します。

その場面を読んでみましょう。

ヨハ 11:28 マルタは、こう言ってから、家に帰って姉妹のマリアを呼び、「先生がいらして、あなたをお呼びです」と耳打ちした。

「耳打ちした」とありますので、耳元にきて「マリア・イエス様が呼んでおられますよ」と話したのです。

ヨハ 11:29 マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行った。

ヨハ 11:30 イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎えた場所におられた。

マルタはマリアに伝えるのです。

妹マリアは、悲しみのあまりでしょうか。家に座り込んでいたのです。

そのマリアに対して主イエスが「マリアよ来なさい」と呼ばれたのです。

死んだラザロのきょうだい、マルタとマリアの所に主イエスが行かれたのは死んで

から4日になっていましたね。

そして、マリアは主イエスにマルタと同じような訴えをします。

ヨハ 11:32 マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足元にひれ伏して、「主よ、もしここにいてくださいましたら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。

ヨハ 11:33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、憤りを覚え、心を騒がせて、

ヨハ 11:34 言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。

ヨハ 11:35 イエスは涙を流された。

マリアはマルタと同じように「ここにいてくださったらラザロは死ななかつたのでしょうに」と主イエスの足下で泣いたのです。

「イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、「憤りを覚え」33 節（注つき聖書では、別訳「激しく息をつき」）激しく息をつき」フ～ン 真似するのは難しいですね。落ち着いてではなく、激しい息づかいをなされたのです。

共同訳の「憤りを覚え」とはどのようなことでしょうか。

主イエス激しく燃え上った霊的な、また实际的な憤りは、人類の「最後の敵である死」に対する挑戦であります。そして「死」をもたらす罪に対する憤りではないでしょうか。

そして、53 節

「イエスは涙を流された」のです。

主イエスはここでマリアたちに「泣かないでいなさい」とは言われなかった。死の力、サタンに対して「憤られ」「涙を流される」主イエスの姿であるのです。

ここで涙をながされたということばですが、皆さん私たちは色々な泣き方がありません。

「涙がにじむ」とは「涙があふれる」や「号泣する」ほど激しい泣き方ではなく、感情が内側から静かに湧き上がってくるような、繊細な心の動きを伝える言葉だそうです。ここでの主イエスの涙はまさに「涙がにじむ」ではなくて「涙を流されたのです」

実は、主イエスがここで「涙を流された」ということばは、原文の聖書ではここだけしか出てこないのです。

主イエスの生涯で他にもう一回涙される場面がルカによる福音書に出てきます。ルカ 19:41 エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて

ここでは、「泣いて」とありますが、別のことばです。

まさに、主イエスは「涙を流された」のです。

次は、メシアであるイエス様しか言うことのできないことば、また言ってならないことばが出てくるのです。

それが、「ラザロ、出てきなさい」43 節　とう主イエスの宣言のことばです。

ヨハ 11:41　人々が石を取りのけると、イエスは目を上げて言われた。「父よ、私の願いを聞き入れてくださって感謝します。

ヨハ 11:42　私の願いをいつも聞いてくださることを、私は知っています。しかし、私がこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたが私をお遣わしになったことを、彼らが信じるようになるためです。」

ヨハ 11:43　こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。

死の匂いが漂うような墓であった洞穴から出てくるようラザロに命じられたのです。

ここで、まず、主イエスが名前を呼んでおられるのです。

「ラザロよ！」「ラザロよ出てきなさい」です。

この前で、主イエスはマリヤを呼んできなさいと名前を呼んでおられます。

その後で、メシアであるイエス様しか言うことのできないことば、また言ってならないことばが出てくるのです。それが、「ラザロ、出てきなさい」

どこからですか。そうです、死の洞穴から出てきなさい。

これは、「ラザロの復活」とも言えますが、ラザロもいずれまた死ぬのですから、「ラザロの蘇生」とも表現できるかもしれません。

ここでちょっと話したらいいかどうか迷ったのですが、ある出来事をお話ししたい。小林光生は、数えてみると 50 年ほど牧師をしているのですが、

50 年間で 1 回、よそのある教会で、ある若い牧師が司式をした葬儀で、その牧師が死んだ人に向かって「ラザロよ出てきなさい」というようなことばを真似したことばを發したのです。

「〇〇よ、起きなさい・・・」何も起こりませんでした。

あたりまえですよ。このことばは、「死に勝利をとられるメシア、イエス・キリスト」だけが宣言できることばであるのです。「真似もしてはいけません。」

ヨハ 11:43　こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。

ヨハ 11:44　すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。

この主イエスの死に対する勝利宣言ともいえるラザロのよみがえりの出来事を通じて主イエスは十字架への道と向かわれるのです。

ヨハ 11:47　そこで、祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を召集して言った。

「この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。

ヨハ 11:48 このままにしておけば、皆が彼を信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の土地も国民も奪ってしまうだろう。」

あとで、伝道者パウロはコリント人への手紙で「死は勝利にのまれた」と主イエスの十字架と復活のできごとを表現しています。

今日の「ラザロよ出て来なさい」は、主イエスの十字架と復活を先取りする宣言なのです。

最後は、イエスは、「もし信じるなら、神の栄光を見ると言ったではないか」と言われた。11 章 40 節 このことばは、マルタ、マリアに対することばと同時に、私たちへのことばではないでしょうか。

「神の栄光を見る」とあります。マルタ、マリアはよみがえったラザロをみたのです。神の栄光とは、イエス・キリストを通じて与えられる恵みの光、輝きであり、わたしたちも、神の栄光を見ることができると主イエスは、宣言されておられます。

今回この所から特に教えられたところがあります。主イエスがこの「もし信じるなら、神の栄光を見ると言ったではないか」ということばの後に次のような感謝の祈りをされおられるということです。

ヨハ 11:41 人々が石を取りのけると、イエスは目を上げて言われた。「父よ、私の願いを聞き入れてくださって感謝します。

私たちにとっても、＜～を感謝します＞は、祈りのこたえの先取りではないでしょうか。

今日は聖餐（聖餐式）があります。聖餐式（聖餐）のギリシャ語での語源は、「感謝」を意味します。パンとぶどう液を通してキリストの犠牲と救いを思い起こし、感謝を捧げるのです。

よみがえりであり、命であるお方の＜いのち＞を頂くのです。

今日は、3つのことばを紹介しました。

1 「イエスは涙を流された。」

2 「ラザロ、出てきなさい」

3 「もし信じるなら、神の栄光を見ると言ったではないか」

そうして、先週に引き続いての中心聖句とさせて頂いたみことばです。

ヨハネによる福音書 「私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる」
11章 25 節 わたしたちは、この約束に「はい、信じます」と「感謝します」と答えていくことにより、神の栄光を見ることができなのです。